イノベーション×地方創生

Newsletter　2023 年 6 月 1 日　#39

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典
発　行　元：Japa 日本専門家活動協会 https://www.japa.fellowlink.jp/

INDEX

1. コラム「論点提起」：レジリエントな社会の実現や如何
2. キュレーション：イノベーション × 地方創生
3. 寄稿：和魂デジオ　　（朗読家、駒澤大学・東京工芸大学非常勤講師　神野文子）
4. 解説： 保健所の歴史
5. 読者の声
6. Blog 仕組みの群像：コロナ禍明けの高尾山
7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」の今月の pickup 情報
8. 連携団体及び Japa からのご案内
9. つぶやき（編集後記に代えて）

注：担当執筆者名の記載のない項目は、編集発行人（芝原 靖典）による。

※ 本 Newsletter は、Japa 日本専門家活動協会が毎月 1 日に発行する会員及び関係者向けの newsletter です。3 ヶ月後に当協会の HP https://www.japa.fellowlink.jp/blank-14 にて公開。

Japa 会員・連係団体 募集中！

Japa は、より多くの方々が会員として習合(ならいあい)・連携・共創できることをめざして
正会員(入会金 1 万円、年会費 1 万円)、一般会員(年会費 3 千円)　及び　連係団体
を随時募集しています。お問い合わせ・入会をお待ちしています。
入会・連携に関するお問い合わせ・申込み先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

1. コラム「論点提起」：レジリエントな社会の実現や如何

2019 年 12 月 7 日に中国・武漢市で発生した（実際には、2019 年の 9 月頃から発生していたのではとされる）新型コロナウイルス感染症が、2020 年 1 月 23 日の武漢市の都市封鎖に至り、1 月 30 日に WHO が「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言、そして、3 月 31 日には「パンデミック（世界的大流行）宣言」を発出した。それから約 3 年 3 ヶ月後の 2023 年 5 月 5 日に「緊急事態宣言」の終了が発表された。国内においても、3 日後の 5 月 8 日に感染症法の「新型インフルエンザ等感染症」から「5 類感染症」へ移行するに至り、コロナ禍対応が終了した。

5 月 19 日からは「G7 広島サミット」が開催され、早くもコロナ禍後に向けて、世界が動いている。コロナ禍期には、毎日にようにコロナ禍関連のニュースやレポートが出ていたのが、一気に減少している。その時々の WEB 記事へのリンクも切れ始めている。感染情報データの提供サイトもデータ更新停止やサイト閉鎖が相次いでいる。アーカイブサイトとして残して欲しい。Japa の開設した「新型コロナウイルス感染症　特設サイト」https://japa-fellowlink.wixsite.com/website-2 の各記事をクリックしてアクセスしてもらえば、現時点でのデータ/サイトの残り具合がわかる。

一方で、当事者からの「記録」も出始めている。今後、各分野からの検証的総括記録が出てくることを期待したい。その際には、世界の動きとの比較等をする際のことを勘案すると、「年」の表記を西暦・和暦の併記にして欲しい。政府は、「令和」への元号切り替えに際し、公文書の西暦表記の義務付けを見送っているが、いつまでもそのようなことでいいのだろうか。

▼秘闘:私の「コロナ戦争」全記録 2021/12/22 岡田晴恵(著) 新潮社 https://tinyurl.com/2qewa3k9

▼新型コロナウイルス感染症対応記録 監修 尾身茂 脇田隆字 2023 年 3 月刊　2023 年 4 月 27 日 WEB 公開　http://www.jpha.or.jp/sub/topics/20230427_2.pdf

▼栃木県における新型コロナウイルス感染症対策～前例のない感染症への対応記録～【第 1 波～第 8 波】令和 5(2023)年 4 月 28 日 栃木県新型コロナウイルス感染症対策本部 https://tinyurl.com/2f393rfa

今回のコロナ禍で明らかになったことの一つに、現場実態と仕組みのギャップが大きいことがある。上記の栃木県のような現場実態の記録を各当道府県等も整理し、加えて、課題と対策も整理して、公表・アーカイブして欲しい。それらを全国的に俯瞰すれば、日本として、従来の保健所が対象としていた「感染症(速度が遅く発生も稀少な症例)等」ではなく、今回のコロナ禍のように「急速感染拡大」する次なる感染症へ向けて、備えるべきことが明らかになる。

国は、そうした現場実態からの課題に対する「戦略」を考え、包摂的にソリューションする仕組みを確立し、平常時から、非常時の仕組みを検証と習熟のためにも使い込んで欲しい。そこには、当然ながら、情報システムや生成 AI 等の活用が避けられない。それらの先進技術を活用することで、平常時の医療体制等の革新にも繋げることができる。つまり、「医療 DX」である。

常なる感染症発生のリスクに対応可能なレジリエントな社会の実現に向けて、いつまでも、「計画」だけの繰り返しでは先に進まない。100 兆円のコロナ対策費を次の時代に役立つ形で残して欲しい。今回のコロナ禍の教訓を忘れずに、学び活かすためにどこまで肚を括れるか如何。

2. キュレーション：イノベーション×地方創生

［地域・日本・世界課題］

▼経済安全保障、サプライチェーン再編について歴史から探る　2023 年 5 月 2 日　てらす証券アドバイザーズ　https://note.com/terrace_ifa/n/n6b54da0d0428

▼非正規雇用が生む経済格差と家族形成格差　2023 年 5 月 8 日　季刊 個人金融 2023 春　ゆうちょ財団　https://www.yu-cho-f.jp/wp-content/uploads/2023spring_articles03.pdf

▼なぜ「失われた 30 年」を止められなかったのか…経産省が「結果を出せなかった」と反省するバブル崩壊後の誤算 ”新機軸”で日本復活の「最大で最後のチャンス」を生かす 飯田 祐二 経済産業政策局長　2023/05/15 PRESIDENT Online　https://president.jp/articles/-/69370

［知・技術・イノベーション］

▼ChatGPT で注目、AI 時代を予見した天才数学者チューリング ナチスの暗号を解読し、コンピューター科学の基礎を築いた不遇の天才 2023.5.17　日経ビジネス https://tinyurl.com/2e2sox59

▼日本におけるイノベーションについて考えよう！　鈴木崇弘早稲田大学招聘研究員　2023 年 5/7(日) YAHOO!JAPAN ニュース　https://tinyurl.com/2hpka5x5

▼日本企業のイノベーション創出に向けた経営者への提言　～経営者による「イノベーション宣言」～　2023 年 5 月 18 日　経済同友会　https://tinyurl.com/2znylr2m

▼「科学技術」という言葉を耳にしたら、およそいい加減な話だと確信して、黙って聞き流せばよい　蓮實 重彦　2023/5/23　ちくま web　https://www.webchikuma.jp/articles/-/3108

［生成 AI］

▼日常業務のほとんどは効率化される》東大・松尾豊教授が教える「チャット GPT」時代に求められるスキル 松尾 豊 文藝春秋 6 月号 文春オンライン https://bunshun.jp/articles/-/62971

▼生成 AI はすでにビジネスに好影響を与えている、研究結果　2023.05.03　Forbes https://forbesjapan.com/articles/detail/62789

▼ＡＩの脅威「気候変動より大きい」、研究第一人者ヒントン氏が警告　2023 年 5 月 6 日 UPDATED REUTERS　https://tinyurl.com/2m4gn6hq

▼起業人脈に見る生成 AI 勢力図　オープン AI、グーグルから独立相次ぐオープンソース派、中国勢も台頭へ　2023 年 5 月 8 日　日本経済研究センター　https://tinyurl.com/2h2tddlj

［地方創生］

▼中山間地域等における自治体と地域密着型産業との協働による地域包括ケアの構築に向けた調査研究事業報告会　主催　富士通総研　協力　厚生労働省　中国四国厚生局　2023 年 3 月 22 日　https://tinyurl.com/2pbrvd9u

▼木材自給率が倍増しても林業が絶望的であるのはなぜ？　田中淳夫　（ジャーナリスト）2023 年 5 月 19 日　Wedge ONLINE　https://wedge.ismedia.jp/articles/-/30281

▼持続可能な社会とモビリティ政策～欧州の「SUMP」を踏まえて～　宇都宮浄人　関西大学経済学部 教授 2023 年 6-7 月号　日本経済研究所　https://tinyurl.com/2eyj2572

3. 寄稿：和魂デジオ　（朗読家、駒澤大学・東京工芸大学非常勤講師　神野文子）

舞台で物語を語ることと、大学でコミュニケーション系の講師をしているはしくれとして、これからの日本の教育、主に国語教育について考察してみたい。

今話題になっている ChatGPT の現時点

今話題になっている ChatGPT（対話ソフト・文書生成ＡＩ）は、画期的であり、私も試してみている。いまの時点での私の理解では、ChatGPT の特徴は次の 4 つである。

① 文書作成の時間を大幅に短縮できる。
② 自分では考えもつかない提案をしてくれることもある。
③ すべてが正解ではないので、目的に合わせて自力で仕上げなければならない。平均 7 割くらいは正しいが、残り 3 割は間違いや、的外れもあるので、しっかり自分の感性と国語力で判断できなければならない。それを踏まえて利用すれば、ゼロから考えなくてもたたき台程度は出してくれるので、その分は楽になる。そこから、自分の創作物となるよう完成させればよい。
④ もう一つの特徴は、ChatGPT にどんな質問や命令をするかによって、ChatGPT の返答は全く違うものになってくる。賢く利用するには、優れた質問力も必要ということになる。

日本の教育の未来

文部科学省が推進する「GIGA スクール構想」は、小中高等学校などの教育現場で児童・生徒各自がパソコンやタブレットといった ICT（Information and Communication Technology）端末を活用できるようにする取り組みである。「GIGA」は「Global and Innovation Gateway for All（全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉）」を意味する。子どもたちが DX 化社会で自ら道を切り開いていくために、必要な教育である。

2023 年 5 月 25 日の日本経済新聞によると、文部科学省は当初 2024 年 3 月末までに端末の配備を終えるとしていたが、コロナ禍で登校できない等あり、急遽３年前倒しし、2021 年度末までに、生徒一人に一台のタブレット端末の配布が完了した自治体が 99%に至った、とのことである。ただ十分活用できているかは、ばらつきがあるようだ。これからは実証実験も行い、生徒ごとの学習データを集めて分析し、やがては一人一人の習熟度に合った学習ができるようになるようだ。デジタル教材で、教育の質の向上、期待したい。

次に子どもたちの心の発達に目を向けてみたい。日本の高校生へのアンケートで「自分はダメな人間だと思うことがある」の問いに 72.5%が「そう思う」「まあそう思う」と答えている。これはアメリカ、中国、韓国より断然多い。（次ページの図 1 つ目参照）

その他、日本や日本人に誇りを持っていない、自分に自信が持てない、20 歳未満の自殺率が増えている、など問題がある。教育を変えなければ日本の未来は危ういと思う。そんな中、超党

派議員と民間有識者などからなる「教育立国推進協議会」（座長は下村博文衆議院議員）が、活発な議論を展開している。教育立国を目指し、皆で力を尽くしたい。

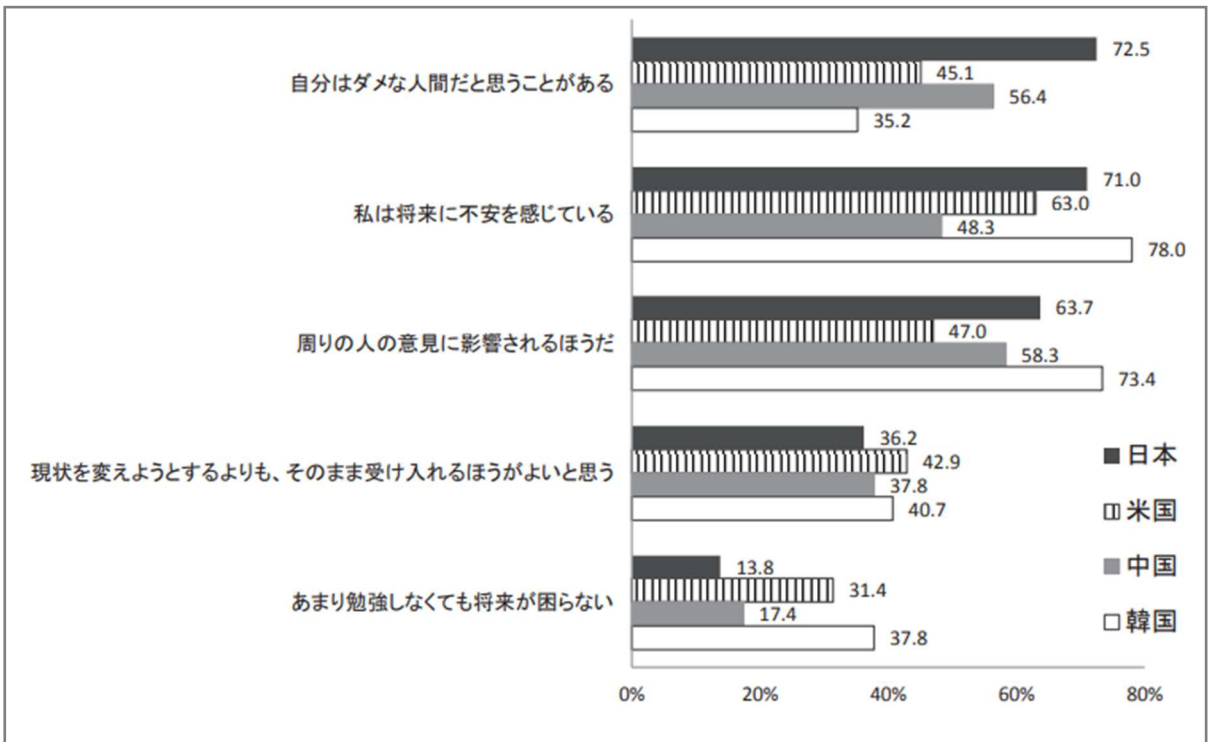

図9－2　自分自身についての考え(ネガティブな項目のみ)
（「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した者の割合）

出典：「高校生の生活と意識に関する調査報告書-日本・米国・中国・韓国の比較」平成 27 年 8 月
独立行政法人国立青少年教育振興機構　https://tinyurl.com/2edlqvkl

さて、子どもたちが自分に自信を持つためにはどうしたらよいのか。一つ言えることは、使命感を持って生きている人は輝いているということである。命を使うと書いて使命。大学生に「あなたの使命は何ですか？」と聞くと「え？わからない。考えたこともない」という学生がほとんどである。自分は何をするために生まれてきたのか、自分の興味・得意なこと、などを基に考えてみることも大切ではないか。これは「志」とほぼ同じだと思う。私が小さな田舎町の中学 2 年生のころ、男子だけ「立志式」というものがあった。その後廃止になったが、新たな時代の立志、志を立て誰かに宣言することも良いことではないか。

そして、子どもたちが日本や日本文化に誇りを持つためには、日本の伝統的な芸事や武道に接する機会を増やすことも一つの方法かと思う。

読み書き能力

さて、冒頭の ChatGPT を使いこなすためにも国語力が必要なのだが、新井紀子著「AI に負けない子どもを育てる」によると、子どもたちの読み書き能力が低下していて、数学や理科や社会など、そもそも教科書に書かれている文章の意味が理解できていない子どもが増えているそうだ。文部科学省はその対策として、2022 年度から実施される新学習指導要領では、高校の国語

を「現代の国語」（必修）「言語文化」（必修）「文学国語」「国語表現」「古典探求」「論理国語」という 6 科目に再編成した。必修以外は 4 科目から 2 科目を選択することになる。

「論理国語」は目新しいが、これで教科書の文章の意味や評論文の意味を理解する能力を育てるということだ。

伝統的な日本の文学・文芸は「文学国語」か「古典探求」で学ぶ。選択科目となってしまうと、美しい日本語に接する機会も減ってしまうと危惧している。論理国語とはある意味対極の、奥ゆかしさ、曖昧な中に何かがほんのり伝わる表現、味わい深い表現、含みのある言い方、何かにたとえたり見立てたり、余韻が残ったり…。私たちが受け継いできた日本人の心、日本語の美しさ、語彙の豊かさは子々孫々に伝えていかなければならない。

国語力を養うために

私は、国語力を養う一つの方法として、話芸としての朗読「ドラマティックリーディング」をお勧めしたい。ドラマティックリーディングは、落語や講談と同じように、一人で、物語に出てくる何人もの登場人物のセリフを演じ、物語りの中の出来事が、まるで今ここで行われているかのように表現する。まさに劇的な読みなのである。

このドラマティックリーディングで聞き手に感動してもらうためには、まず、取り上げる作品は一流作家のものが良い。文章に間違いがなく、美しく整っている。そして、その物語で、何を伝えたいのかを汲み取る。また、何人もの登場人物のそれぞれの性格分析や場面ごとの心理心情を想像しなければならない。発声発音にも気を配り繰り返し練習する。これはかなりの鍛錬になる。

私は、学生からお年寄りまでドラマティックリーディングを指導しているが、繰り返し練習すると必ず上達する。声がよく出るようになった、想像力がついた、人前でしゃべるときも余計な緊張をしなくなった、他者の声や話し方などにも注意を向けるようになった等、受講者から良い報告を受けている。

結び

これからの日本をより良いものにして行くために、伝統的日本文化や日本精神は失わず、そして DX 化で社会が変革する中で、デジタル技術を使いこなす能力はしっかり身に着け、両者を合わせ持つ人、つまり「和魂デジ才」とでもいえるような人に皆がなり、それぞれが得意分野で「和魂デジ才」を発揮して行くことで、より良い日本を、世界をつくっていこう。

令和 4 年度文化庁芸術祭参加公演にて

4. 解説：保健所の歴史

今回のコロナ禍で「保健所」の存在が注目された。保健所とは何か、その歴史を紐解く。

保健所は、1931 年（昭和 6 年）9 月に始まった満州事変、1937（昭和 12）年 7 月の蘆溝橋事件、日中戦争の勃発という時代の流れの中で、「**1937（昭和 12）年 4 月、保健所法が制定**され、国民一般を対象とする国の健康指導相談の機関として、保健所が設置されることとなった。保健所は、国民の体位を向上させ、国防に資するため、地方において保健上必要な指導を行う所と規定され、**1937 年度には全国で 49 か所、以後 5 年間で 187 か所が整備**された。」

都市型のモデル保健所：1935 年 1 月
東京市京橋区（現東京都中区）明石町

農村型のモデル保健所：1938 年 1 月
埼玉県所沢町（現所沢市）

出典：感染症対策はなぜ見落とされてきたのか－保健所を中心とした公衆衛生の歴史を振り返る
2020 年 09 月 15 日　ニッセイ基礎研究所 2020 年 09 月 15 日　https://tinyurl.com/2hlp3c6u

これが保健所の始まりであり、「翌 1938（昭和 13）年 1 月には、内務省から分離する形で厚生省が誕生し、以後、保健所に関する事項を含む衛生行政は、厚生省衛生局の担当となった。更に、1942（昭和 17）年には、それまで地方長官（大日本帝国憲法時代における府県知事、東京都長官、北海道長官の総称）の権限であった**体力向上についての指示や療養に関する処置命令の権限等を保健所長が有することとなり、保健所は単なる指導機関ではなく、行政措置を行う機関としての性格も併せ持つ**こととなった。」 この基本的な骨格は現在まで続いている。

すなわち、**保健所は、戦時体制の一貫**として行政機関として創設されたが、戦後、結核は克服され、疾病構造が変化し、高齢社会化に伴う高齢者医療費増大に対する医療費抑制の流れの中で、保健所の機能縮小・削減（1992 年 852 所 ⇒ 2020 年 4 月 469 所 にほぼ半減）、分権化（市町村に「保健センター」設置、保健師 3.6 万人､2020 年）が進められた。

こうした流れにあった現在の保健所の状況下で、今回のコロナ禍が発生した。当然ながら、急速に感染拡大する新型コロナウイルス感染症に対応するにはそもそも無理であったと云える。

参考：平成 26 年版　厚生労働白書　https://tinyurl.com/2hlp3c6u
医療供給体制と構造的制約－日本のコロナ病床確保はなぜ困難に直面したのか－　March 22, 2023　東京財団政策研究所　https://tinyurl.com/2m64by6w　他

5. 読者の声

［読者の声］鉄道開業 150 年に想う 第 7 話 「横浜村開港とペリー提督の汽車ポッポ」

（作詞･作曲家 高橋育郎）

ペリー提督が浦賀にやってきたときは、日本は大地震に遭ったような驚きと喧騒に陥った。
そして、尊王攘夷の内乱が起きた。結局、井伊大老が強権をもって強制的に収め、横浜村という寒村を開港した。この横浜が、今に見る大横浜に発展した。
ペリーは、品川を望んだが、品川はあまりにも江戸城に近いため、横浜を選んだ。

さて、ここにペリーが軍楽隊を伴って上陸した様は、錦絵に残されている。
ここで、開港を祝ういくつかの行事があったが、鉄道にまつわるものがあった。
それは汽車である。その汽車は遊園地で観る、こどもの豆汽車のようなものだった。
仮の線路をひいて、ここに蒸気機関車がけん引する列車を走らせたのだ。これも錦絵に残っている。勿論、日本人は驚きの眼をもって見ていた。

西洋の科学文明を、まざまざと見せられたのだ。日本は精神文化の面では、優れたもの残しているが、こと機械の発明はなかった。ここで、ちょっと思うのだが、日本は鎖国後も長崎出島でオランダと交易をしていたが、それにも関わらず、こうした西欧の機械文明は、もたらされていなかった。

さて、それはさておき明治新政府の要人は、この汽車に魅力を感じ、日本が近代国家として、これから成長していく上には、どうしても鉄道建設が必要不可欠と認識したのだ。NHK 大河ドラマで、一層有名になった大隈重信、渋沢栄一や、更に鉄道の父と言われた井上勝らの活躍が、よく知られている。井上勝の銅像は、今でも東京駅前、丸の内広場に建っている。

さて、いよいよ明治五年新橋～横浜間が開業した。この偉業と人気は、東海道新幹線を凌ぐものだったといえる。人々からは新奇と脅威の眼差しで観られた。出発式もさることながら、一番列車が走る沿線には、人々が群れをなして集まった。その目の前を列車は、煙を吐き轟音ながら見たこのない速さで走り去って行った。中には、その凄まじさに恐怖のあまり眼を開けていられなく、汽車が去ってしまってから、「ああ怖かった」というもあった。そして、火を吐きながら走るその姿を「火龍」といった。運賃も高かった。

日本では室内に入るときは、下駄をぬいてあがる習慣から、車内に入るとき、下駄や草履を持ってあがった人が多かった。
品川辺りは、海の沿岸を走ったが、海の中にレールを敷いて走った部分があった。まだ、埋め立てが進んでいなかったせいだ。
新橋駅は、今の新橋駅の駅前にあった。当時のレールやホームの後の瓦礫が、後に発掘されて、当時の駅舎後の博物館に収められている。一方、横浜駅は、現在の桜木町だった。
鉄道の開業は予測通り、一日の休みなく走り続け、その後の日本の発展に大いに貢献したことは言うまでもない。

＜完＞

6. Blog　仕組みの群像：コロナ禍明けの高尾山

コロナ禍明けの 2023 年 5 月 21 日（日）、曇り空の中、久々に、高尾山に登った。二度目である。一度目の 2016/10/10 に登ったときは電車で行ったが、今回は息子の車の運転で、孫（3 歳、6 歳）も一緒であった。マスクを付けず、コロナ禍後の変わらぬ自然と、外国人も含めて上り下りする人間の活力を感じた 1 日をブログにアップしました。

Blog 仕組みの群像：コロナ禍明けの高尾山
https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/

7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」の今月の pickup 情報

https://japa-fellowlink.wixsite.com/website-2

▼感染症と人類の歴史　これまで人類は感染症とどのように戦ってきたのか　忽那賢志 感染症専門医 2023/5/4(木)　YAHOO!JAPAN ニュース　https://tinyurl.com/2kpal3bo

▼新型コロナの起源めぐる「タヌキ騒動」が意味すること　新型コロナウイルスの起源に関する論争が 3 月下旬、再燃した。新型コロナウイルスを持ち込んだのがタヌキである可能性があるというものだ。2023.05.09　MIT Technology Review　https://tinyurl.com/2pjzf56q

8. 連携団体及び Japa からのご案内

▼第 16 回 Japa フォーラムの開催（2023 年 5 月 31 日）報告のアップ

フォーラムの論点提起において使用した「コロナ禍の総括と新たな地平に向けて」の PPT 資料（事実データのアーカイブ）をアップ https://www.japa.fellowlink.jp/japa しました。

▼Japa の会員募集

Japa は、会員［正会員、一般会員］、連携団体を随時募集しています。

※ 正会員：入会金 1 万円、年会費 1 万円　　一般会員：年会費 3 千円

お問合わせ先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

9. つぶやき（編集後記に代えて）

最近、とある打合せで、バーチャルとリアルの融合一体化が進み、経験/体験も蓄積される時代において、人によって「リアリティ」が変わってきているのではないか、「リアリティ」とは何か、再定義が必要になってきているのではないか、と云う発言に触れ、なるほど確かにそのとおりで、スコープの拡大が既に起き始めていることに気付かされた。流れは早い、・・・。

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典
問合せ・連絡先：info@japa.fellowlink.co.jp
発行元：Japa 日本専門家活動協会　https://www.japa.fellowlink.jp/

Copyright © 2023 Japa 日本専門家活動協会